

2 中高連携授業変革の歩み

(2) 岐阜県立武義高等学校における実践

<授業実践>

授業実践に向けての構え

テーマを漠然としたものでなく、表現能力向上に向け、特に、第1回は「書くこと」、第2回は「話すこと」に焦点を絞り研究交流することとした。

第1回授業交流研究会

【日 時】 平成14年6月28日(金)

【公開授業】

- ・ 単元名 REVISED MILESTONE English Course Lesson 4 “Peppers” Part 2
- ・ 授業学校・学級 県立武義高等学校 2年1・2組(商業・情報処理科 選択) 英語
- ・ 主な提案内容

本時課題とする文法事項「比較級+than any other+単数形」を用いた文の特徴や用法の定着のため、「話すこと」と「書くこと」の関連を図って指導した。

ア 正確に「書くこと」への継続的な指導

語彙や文法事項等の正確な表現の定着ために、以下のような「書くこと」への指導を継続的に行っている。

- ・ 教科書文についての家庭学習の定着と授業でのその活用(ノート指導)
- ・ 前時の復習での既習の文法事項を用いた「書くこと」による表現活動

イ 「話すこと」と「書くこと」による課題とする文法事項の定着を図る表現活動

中学校で口頭でのコミュニケーション活動が重視され、生徒にその力が付いていることを考え、本時の課題とする文法事項「比較級+than any other+単数形」の定着のための情報収集をするコミュニケーション活動を設定した。身近な話題についてのインタビュー活動により、生徒の興味・関心を喚起できる活動となり、さらに、最後の「書くこと」による表現活動への意欲や課題とする文法事項の定着にもつながった。

【授業研究会】

- * ノートを用いた継続的な「書くこと」への指導は、中高継続して指導していくことで確かな力につながる。
- * 単位時間の課題とする表現を定着させるためには、「話すこと」と「書くこと」を関連させて指導することが有効である。
- * 「書くこと」の課題について、中高の指導内容から発展性を検討する必要がある。

第2回授業交流会

【日 時】 平成14年11月15日(金)

【公開授業】

- ・ 単元名 Hello there! OCA Lesson 9 “Shall We Eat Out?”
- ・ 授業学校・学級 県立武義高等学校 1年4組(普通科) 英語
Oral Communication A

・ 主な提案内容

1年生普通科においては、英語(4単位)中の1時間をOCAの授業として位置付け、4領域のバランスに配慮しながらも、AETの協力を得て、「話すこと」と「聞くこと」に焦点を当てて指導している。本時では、課題とする重要表現の定着やその運用能力を培うために、生徒一人一人に十分な表現の機会が確保できる言語活動を設定した。



ア 「スピーチコンテスト」に向けての継続的な指導

スピーチコンテストに向けての暗唱練習を継続的に位置付け、「話すこと」の表現能力の育成を図っている。JTE や AET が個への指導を位置付けることにより、継続的に実態を把握し、個に応じた助言をすることが可能である。

イ 重要表現の定着を図る言語活動

中学校での同様の内容での言語活動からの発展性を考え、現実的な場面設定や、生徒個々が original 且つ creative に表現内容を考える言語活動を設定した。このことにより、インフォメーションギャップが生まれ、「話すこと」「聞くこと」の能力の育成とともに、活動への意欲も高めることができた。

ウ 本時のまとめでの重要表現の定着を確認する小テスト

まとめで、本時の重要表現についての穴埋め式の小テストを実施し、定着の確認を図った。生徒自身に、本時の学習の価値付けや自己の変容の自覚を促すことにつながった。



【授業研究会】

- * 限られた時間の中で、指導内容とそれの定着を図る活動時間とのバランスが大切である。
- * 全員が参加でき、ねらいを達成するためには、生徒の実態を考慮した学習活動の設定と、授業中の実態把握による個への指導の充実を図ることが大切である。

<グローバル・スタンダードによる英語力診断>

- ・ 同一母集団における英語力（読解力・リスニング力）の伸長がみられた。
現在の3年生36名受験 - 400点以上16名（昨年2年生時8名）

* これまでの語学研修(事前、事後研修を含む - AET との team teaching)や LL WRITING 等の授業を通して、コミュニケーション能力、表現力向上を目標に4 skills の習得を目指し、学習を進めてきたことがこの結果につながったと考える。

<民間語学学校ネイティブスピーカー派遣事業>

- ・ 10月7日(月)2年国際理解コースを対象に海外語学研修事前研修として、オーストラリア、アメリカ、カナダ出身の3名の講師に第3限～第6限に来校して頂き、実施した。第3・4限は簡単な自己紹介と各国の料理を作りながら互いを知り合う機会とし、第5限は民間語学学校方式での語学研修。第6限は「もっとオーストラリアを知ろう!」とゲームやクイズに挑戦した。

【生徒の感想より】*楽しかった。*初めてベジマイトを食べて、まずかった。*沢山英語を使うことが出来た。*時間が早く過ぎた。*ゲームが多くて疲れた。等

<イマ・ジョン・プログラム>

英語による他教科授業実践



7月1日(月)名古屋商科大学より2名の講師 (Australia, U.S.A 出身)を招き実施した。

『流通経済』 - 1年生商業科対象

『情報処理』 - 1年生情報処理科対象



【授業後の生徒のアンケート結果より】()内は%

- ・楽しく授業を受けることができた(70)
- ・半分以上は理解できた(45) 3割程度は理解できた(25)
難しかった(30)
- ・機会があれば[英語]で英語以外の授業をまた受きたい(63)
- * 英語で受きたい科目：現代社会、日本史、情報処理、
体育、音楽、数学、古典、書道等
- ・英語で英語以外の科目の授業を受けることで英語力がつくと感じた(85)

【生徒の感想より】

- ・初めての経験で、よい機会となった。 ・自分の英語力不足を痛感した。
- ・もう少し準備していれば有意義な機会となった。 ・外国人と触れ合いたい。 等

英語による諸活動実践

【A】6月26日(水)2年商業・情報処理科(2クラス)を対象に海外研修旅行(シンガポール・マレーシア)の事前研修として実施した。『アジアに目をむける』と題し、日本在住のフィリピンの女性を招き、地図等を用いたグループ対抗ゲーム形式でアジア各国の紹介をするといった形で行った。

【B】2年国際理解コースを対象に10日間の海外語学研修旅行(オーストラリア)の継続的な事後研修として、複数名のネイティブスピーカー(イギリス・カナダ・アメリカ)を招き少人数グループでの会話を中心とした授業を実施した。



《第1回》11月14日(木)

《第2回》12月5日(木)

《第3回》1月30日(木)

《第4回》2月14日(金)



* 海外語学研修後ということもあって、生徒の反応は極めて良く、積極的に授業に参加する姿が見られた。

生徒達は一応に、海外研修直後の《第1回》の方が自然に会話に溶け込めたようで、語学学習を継続することの大切さを痛感したようである。そうした意味からも語学研修旅行がゴールではなく、むしろその後の学

習の意味は大きく、この事後研修の意義はあったように思われる。

物品購入 ディベート甲子園(ビデオ) スクリーン・プレイ(CD、地図、書籍) 等

<成果と課題>

授業交流実践により、中学校における英語教育の現状を知る良い機会となった。

中学校で学習した英語(積極的なコミュニケーション活動)を基礎や土台として、高校では、よりモチベーションを高め、その能力を一層伸長させる指導目標や指導形態、指導方法について検討してきた。今後も、AETと協力しながら、学習段階を考慮したコミュニケーション活動を継続的に取り入れた授業を設定していくことが必要と思われる。

イマージョン・プログラムでは、生徒達だけでなく、指導する側にとっても、様々な英語の学習環境、指導形態・方法を知り実際に体験出来る良い機会となった。